JCF JAPAN CYCLING FEDERATION 日本自転車競技連盟

2020-21 Winter Issue

Cyclism echo

シクリスムエコー

No.232



［巻頭特集］

東京2020五輪 日本代表候補選手発表！

決戦に挑む16人の精鋭たち

・代表候補選手紹介

・スペシャルインタビュー
梶原悠未／新城幸也／長迫吉拓

［第二特集］

2020年、コロナ禍に立ち向かう自転車競技界

トラック全日本選手権／欧州トップチームの取り組み
UCI eスポーツ世界選手権／全日本BMX連盟の取り組み

アスリートの盗撮、写真・動画の悪用、悪質なSNS投稿は卑劣な行為です。

スポーツは、子供から大人まで誰もが楽しめるものです。そのためにも安心してスポーツに取り組める環境を守っていく必要があります。
盗撮はもちろん、アスリートの写真・動画を使用した性的目的のSNS投稿やWEB掲載は、アスリート、更には多くのファン、家族、関係者を傷つける絶対に許されない卑劣な行為です。
すべてのアスリートが競技に集中し、スポーツを心から楽しめる環境を守るため、スポーツ界全体でこの問題に取り組みます。

- 大会における盗撮防止事例を共有し、各大会での防止策の取り組みを後押しします。
- 研修等を通じ、アスリート自身がネットやSNSで身を守る必要性を啓発していきます。
- SNS投稿やWEB掲載の実態把握に努め、関係機関に共有していきます。

この問題を解決するには皆さんのご理解が欠かせません。
これからも安心してスポーツができる環境を守るために、ご理解ご協力をお願いいたします。

安全な環境を、すべてのスポーツ愛好者のために。

SAVE ATHLETES, SAVE SPORT.

大会会場で盗撮等が疑われる行為を見かけましたら大会主催者にお知らせください。

アスリートを傷つける性的目的のSNS投稿やWEB掲載を見かけましたら下記サイトよりご連絡ください。
今後の対応に活用するとともに、悪質な事例については当局への通報も検討します。

https://www.joc.or.jp/about/savesport/

- 盗撮は迷惑防止条例で犯罪として処罰される可能性があります。
- SNS等で本人の名誉を傷つける書き込みは犯罪（名誉毀損罪）として処罰される可能性があります。
- 匿名による投稿であっても、法的手続により、投稿者が特定され、損害賠償請求の対象になる可能性があります。

公益財団法人 日本オリンピック委員会　公益財団法人 日本スポーツ協会　公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会　一般社団法人 大学スポーツ協会
公益財団法人 全国高等学校体育連盟　公益財団法人 日本中学校体育連盟　独立行政法人 日本スポーツ振興センター

CONTENTS No.232

Cyclism echo シクリスムエコー



COVER RIDER 今井美穂（いまいみほ）

東京五輪MTBクロスカントリー日本代表候補選手。今季はMTBクロスカントリー全日本選手権で3連覇。シクロクロスでも全日本選手権を3年ぶりに制し勢いに乗る。小学校教員としてフルタイムで働いており、バイタリティ溢れるキャラクターに注目が集まっている。

［巻頭特集］東京2020五輪 日本代表候補選手発表！
04 決戦に挑む16人の精鋭たち

06 TRACK RACE SPRINT
新田祐大／脇本雄太／小林優香

08 TRACK RACE ENDURANCE
橋本英也／梶原悠未／中村妃智

10 スペシャルインタビュー 梶原悠未
「不退転の覚悟」

12 ROAD RACE
新城幸也／増田成幸／與那嶺恵理／金子広美

14 スペシャルインタビュー 新城幸也
「東京五輪を戦うために
やるべきことは分かっている」

15 会場＆コース紹介①
TRACK RACE / ROAD RACE

16 MOUNTAIN BIKE XCO
山本幸平／今井美穂

18 BMX FREESTYLE
中村輪夢／大池水杜

20 BMX RACING
長迫吉拓／畠山紗英

22 スペシャルインタビュー 長迫吉拓
「逆境から立ち直って目指すもの」

23 会場＆コース紹介②
MOUNTAIN BIKE / BMX

24 JCFが“初”主催する
「シクロクロス合宿研修会」

［第二特集］東京オリンピックが延期となる大波乱……
26 2020年、
コロナ禍に立ち向かう
自転車競技界
トラック全日本選手権／欧州トップチームの取り組み
UCI eスポーツ世界選手権／全日本BMX連盟の取り組み

30 楽天グループのケイドリームスが
トラックレース強化事業を支援！

31 今村駿介のアワーレコード挑戦
世界記録まであと2.621km！

32 Behind The Scenes
自転車界を支えるプロフェッショナル
パールイズミ 佐藤 充さん

33 種目別競技情報
TRACK（P.33）, ROAD（P.34）, BMX（P.35）,
MOUNTAIN BIKE（P.36,37）, CYCLOCROSS（P.38）,
PARA CYCLING（P.39）

スポーツくじ toto BIG
私たちはスポーツ振興くじ助成を受けています。

公益財団法人 日本自転車競技連盟広報誌　シクリスムエコー No.232　2021年1月発行

発行・編集／公益財団法人 日本自転車競技連盟
発　行　人／佐久間重光
編集事務局／公益財団法人 日本自転車競技連盟 事務局
〒141-0021 東京都品川区上大崎3-3-1 自転車総合ビル5F
TEL.03-6277-2690 FAX.03-6277-2691 http://www.jcf.or.jp/

編集　猪俣健一／岩崎竜太／田中苑子／吉本 司
デザイン　株式会社ラジアン
表紙撮影　猪俣健一

※定期購読をご希望の方は編集事務局までお問い合わせください。

この資料および ∞ の表示がある事業は、JKAから競輪収益の一部である公益事業資金の補助を受けたものです。©（公財）日本自転車競技連盟 本誌掲載の写真、イラスト、ロゴマーク、ロゴタイプおよび記事の無断転載を禁じます。

本誌への寄稿またはご意見、ご感想等を編集事務局までお寄せください。

KEIRIN ∞
この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。
https://jka-cycle.jp

TRACK RACE SPRINT, TRACK RACE ENDURANCE, ROAD RACE
MOUNTAIN BIKE XCO, BMX FREESTYLE, BMX RACING

決戦に挑む

16人の精鋭たち



代表候補選手紹介

スペシャルインタビュー
梶原悠未／新城幸也／長迫吉拓

会場＆コース紹介

歓喜の瞬間を夢見て——

東京五輪の日本代表候補選手16人がついに発表された。世界の強者たちと渡り合う精鋭たちは、2021年7月にどんな歓喜の瞬間を見せてくれるのだろうか—。



最高時速70km超、最強競輪選手が世界の頂へ

TRACK RACE SPRINT

爆発的なパワーと勝負どころを見極める一瞬の判断力が重要になるトラック短距離種目。日本はトラック短距離で男子2枠、女子1枠の出場枠を獲得した。

text：田中 苑子　photo：田中 苑子、滝沢 佳奈子

W杯メダリスト、新田、脇本、小林が負けられない戦いに挑む

競輪発祥国の誇りで狙うは金メダル

2016年に就任したフランス人のブノワ・ベトゥ ヘッドコーチのもと、チームとして著しい成長を遂げる短距離チーム。トップクラスの競輪選手としても活躍する新田祐大、脇本雄太、小林優香がそれぞれケイリンとスプリント種目に出場する予定。「就任当初、日本が女子短距離の出場枠を獲ることは考えられなかった」とベトゥコーチが振り返るが、小林と今回は補欠となった太田りゆが奮闘し、女子ではロンドン五輪以来の出場枠を獲得した。なお、もう一つの短距離種目であるチームスプリントは、日本は男女ともに出場枠を獲得できず。

ケイリンは日本の競輪から派生した競技種目で、最大7名の選手が先頭誘導員のもと加速していき、最後は選手のみでラストスパート勝負となる。スプリントは一対一の勝負で、決められた周回を走行したのちフィニッシュラインに先着した選手が勝利し、決勝まで勝ち抜いていく。

今回代表に選考された3選手はすでにワールドカップや世界選手権ケイリン種目でのメダリスト。その実力は間違いなく世界レベルであり、新田が「金メダルを獲ることだけを考えてやってきた」と話すとおり、彼らの視線の先にあるのは“メダル”ではなく“金メダル”だ。

INFORMATION	
競技日程	8月2日～8月8日
開催地	伊豆ベロドローム 住所：静岡県伊東市大野1826

MEN 日本代表候補選手 出場予定種目／男子ケイリン、スプリント



PROFILE

新田祐大　Yudai NITTA

所属 … JPCA ドリームシーカーレーシング
生年月日 … 1986年1月25日（34歳）
出身地 … 福島県
身長 … 173cm
体重 … 88kg



■ 主な戦歴

2020年　トラック世界選手権 男子ケイリン種目 5位
2019年　トラック世界選手権 男子ケイリン種目 2位

五輪は子どものからの夢 ケイリンでの金メダル獲得を誓う

ロンドン五輪（チームスプリントで出場）以来、2度目のオリンピック出場となるトラック代表候補の最年長選手。1964年東京五輪に出場した班目秀雄氏を師匠とし、競輪選手として10年以上のキャリアをもつ。東京五輪では金メダルを獲得することが唯一、絶対の目標。金メダルに向けて「国内トップの最大出力を世界でも圧倒的に強いというレベルまで強化したい」と抱負を語る。東日本大震災の翌年のロンドン五輪では、地元福島から大きなエールを受け取った。その恩を東京五輪での金メダルで返すべく、鋭い視線で頂を見つめる。

リオでの悔しさをバネに、東京五輪でのリベンジをめざす

五輪初出場となったリオ大会のケイリン種目では13位予選敗退。期待していた成績に大きく及ばず挫折を味わった。その後2017年、2018年と2シーズン連続してケイリン種目でワールドカップ優勝を果たす。2020年は世界選手権ケイリン種目で勝利には届かなかったが、銀メダル獲得の素晴らしい走りを披露し、競輪でも賞金ランキング2位（2020年12月27日現在）につける。さらには医療従事者への寄付活動も熱心に行った。「東京五輪では必ず金メダルを獲得するという強い気持ちでやっている。スピード、持久力が長所。東京でリオのリベンジをして恩返しをしたい」



PROFILE

脇本雄太　Yuta WAKIMOTO

所属 … JPCA チームブリヂストンサイクリング
生年月日 … 1989年3月21日（31歳）
出身地 … 福井県
身長 … 180cm
体重 … 80kg



■ 主な戦歴

2020年　トラック世界選手権 男子ケイリン種目 2位
2019年　アジア選手権 男子ケイリン種目 優勝

（補欠選手：深谷知広／河端朋之）

WOMEN 日本代表候補選手 出場予定種目／女子ケイリン、スプリント



PROFILE

小林優香　Yuka KOBAYASHI

所属 … JPCA ドリームシーカーレーシング
生年月日 … 1994年1月18日（26歳）
出身地 … 佐賀県
身長 … 165cm
体重 … 67kg



■ 主な戦歴

2019年　ワールドカップ第3戦 女子ケイリン種目 3位
2019年　アジア選手権 女子ケイリン種目 優勝

バレーボールから転向し、五輪でのメダル獲得の夢に向かう

バレーボールに打ち込んでいたが、短大時代に自転車競技への転向を決め、競輪学校に入学。抜きん出た身体能力やひたむきな努力により在学中から頭角を現し、ガールズケイリンデビュー後は勝利を量産し負け知らず。競技でも世界レベルへと成長し、2018年、2019年と2シーズン続けてワールドカップで銅メダルを獲得。2020年も200mFTTで日本記録を更新するなど進化は止まらない。「競輪学校に入学した年に東京五輪の開催が決まった。そのときからの目標。もう1年準備できるという気持ちで、高いモチベーションをもって挑みたい」

（補欠選手：太田りゆ）



手に汗握るレース展開で、魅了される中距離種目

TRACK RACE ENDURANCE

戦術や心理戦も入り組むトラック中距離種目。オムニアムは橋本英也と梶原悠未が出場、女子のみ出場枠を獲得したマディソンでは中村妃智が梶原とペアを組み、世界と戦う。

text：田中 苑子　photo：田中 苑子、滝沢 佳奈子

世界王者・梶原悠未が絶対的優勝候補となる女子オムニアム

ゲーム性も高く迫力ある中距離種目

2012年ロンドン大会から採用されたオムニアム種目。ルール変更が多いが、東京大会では1日でマスドスタート4種目を行う。スクラッチ、テンポレース、エリミネーションの3種目は着順に応じたポイントが各選手に与えられ、最終種目のポイントレースでは、3種目での獲得ポイントを持ち点としてスタートし、レース展開により加減点された最終的な持ち点で順位が決まる。

なんといっても注目は2020年、自転車競技において日本人女性史上初の世界王者となった23歳の梶原悠未。心身の強化だけでなく、ライバルや戦術を研究し尽くす世界一の努力家だ。ワールドカップでも4大会で優勝、自国開催の五輪では世界の強豪が間違いなくマークする。一方の男子は橋本英也が満を持して登場。「コンディションと集中力次第で間違いなくメダル圏内」とクレイグ・グリフィンコーチは分析するが、天才的な感性を生かして大一番でしっかりと見せ場を作ってくれるだろう。

そしてペアを組んでポイントレースを行うマディソンは男子は3大会ぶりに復活、女子は初開催される。日本は女子のみの出場となるが、梶原のスプリント力を最大限に生かすべく、相性の良い中村妃智が発射台を担う。

INFORMATION	
競技日程	8月2日～8月8日
開催地	伊豆ベロドローム 住所：静岡県伊東市大野1826

MEN 日本代表候補選手 出場種目／男子オムニアム





PROFILE

橋本英也　Eiya HASHIMOTO

所属 … JPCA チームブリヂストンサイクリング
生年月日 … 1993年12月15日（27歳）
出身地 … 岐阜県
身長 … 180cm
体重 … 75kg

■主な戦歴

2018年　アジア競技大会 男子オムニアム種目 優勝
2020年　アジア選手権 男子オムニアム種目 優勝

才能豊かな万能選手 念願の大一番に挑む

競輪選手、ロードレース選手、そしてトラック競技選手と三足のわらじを履くユニークな選手。観るものを圧倒させる才能豊かな走りと親しみやすいキャラクターから多くのファンをもつ。リオ大会では直前で代表選考から外れ落胆したが、そこから競輪選手となり、心身ともに大きく成長した。グリフィンコーチは「まだまだ伸びしろがある」と言い、本人も「オリンピック延期はチャンス。世界選手権では反省点があり、2020年の五輪だったらメダルは難しいと思っていたが、この時間を利用して補強することで、もっとメダルに近づけると思う」と話す。

（補欠選手：窪木一茂）

WOMEN 日本代表候補選手 出場種目／女子オムニアム、マディソン





PROFILE

梶原悠未　Yumi KAJIHARA

所属 … 筑波大学大学院
生年月日 … 1997年4月10日（23歳）
出身地 … 埼玉県
身長 … 155cm
体重 … 56kg

■主な戦歴

2020年　世界選手権 女子オムニアム種目 優勝
2020年　アジア選手権 女子オムニアム種目 優勝

母と二人三脚で掴み取る“有言実行”の金メダル

負けず嫌いな性格で、高校から自転車競技を始めると瞬く間に活躍の場を世界へと広げ、弱冠22歳の若さにて世界王者の証アルカンシェルに袖を通した。表彰台の頂点で屈託のない笑顔を振りまくが、その背後にはストイックに身体を鍛え上げ、競技を研究し尽くす常人離れした努力があり、またその傍らには献身的に支える母・有里さんの存在もある。「日本代表としての自覚と誇りを胸に、精一杯準備したい。女子オムニアムで必ず、金メダルを獲得する。有言実行を胸に頑張ります」。世界一になった王者の言葉は誰よりも重く、そして力強さをまとう。

梶原の強さを引き出す最高のパートナー

二人1組となり、手を取り合って交代を繰り返しながらハイスピードで30km（女子）のポイントレースを行うマディソン。世界トップのスプリント力を誇る“カジ”のパートナーとして選出された中村を、グリフィンコーチは「ふだんは物静かだけど、自転車に乗ると怖いもの知らず。梶原とペアを組むのに最高の資質がある」と評価する。「ポイント周回に向けて集団の前でより速いスピードで力強く梶原に交代するのが自分の役目。夢の舞台に立つチケットは手に入れた。小さい頃からテレビ越しにオリンピックで見て、日本中が盛り上がっている様子を感じてきた。その一翼を担えるように頑張りたい」とコメント。





PROFILE

中村妃智　Kisato NAKAMURA

所属 … 日本写真判定
生年月日 … 1993年1月7日（27歳）
出身地 … 千葉県
身長 … 165cm
体重 … 67kg

■主な戦歴

2019年　アジア選手権 女子団体追い抜き種目 2位
2020年　アジア選手権 女子マディソン種目 5位

（補欠選手：古山稀絵）

TRACK RACE ENDURANCE

梶原悠未

不退転の覚悟

新型コロナウイルスという未曽有の事態の中でも梶原悠未は、「五輪での金」という一本筋を突き通す。
その意識を持ち続け、覚悟を背負った彼女は進化を止めることは決してない。

text：滝沢 佳奈子　photo：田中 苑子



これまでと同様、母の有里さんと二人三脚で目標への思いをさらに強いものへと昇華させる



メダルを確実にするための一年間

東京五輪の自転車競技において、金メダル獲得に向けて最も近い位置にいるのは女子オムニアムの梶原悠未のはずだ。

五輪延期という発表に対しても、その期間を「強くなるための期間」と位置づけ、「そのトレーニング生活は、とても充実した楽しいものでした」とすら話した。練習中であろうとも、常に”オリンピックで金メダルを取る”という意識と覚悟を持って走る。

あらゆるレースが中止となった夏、梶原は、男子と混走のクリテリウムレースなどさまざまなレースにも出場した。レースが開催されない中で、男子選手を世界トップレベルの女子選手と見立て、自身の強化してきた力の把握を目的とした。そこでは、持久力とスピードをさらに磨く必要があると考え、実戦的要素の必要性もつかむ。

「これまでは持久力とスピードっていうのを別で考えていて、分けてトレーニングをしていました。でも今回求められたのは、長時間低い強度で走る持久力でもなく、短時間に一回もがいてトップスピードを出す能力でもなく、それを両方合わせたもの。これからのトレーニングに取り入れていきたいと思います」

戦略面の向上においてもぬかりない。

2020年大学院に進学した梶原は、大学の卒論のテーマにしたオムニアムのなかでもエリミネーションという種目に対してさらに研究を深める。エリミネーションにこだわる理由について、「エリミネーションは最後尾にならなければいいレースなので、どれだけ集団の前方で体力を温存しながら走り続けることができるかが大切です。集団の中で多くの選手が前に行きたがるので、そこで前を位置取るためには、技術であったり、集団内での位置取りの戦略・戦術がたくさん求められるレースだと思っています。そのレースを研究することで、他のレースにも生かせる技術や戦術がたくさんあると思うので、まずはそこから開発していきたい」と語った。

このコロナの期間にもさまざまな先行研究に目を通し、それらの”実証実験”を行うかのようにトラック全日本選手権を走った。

全日本では、アルカンシエルを着るオムニアムを含む6種目全て優勝を達成目標として掲げ、それもしっかりと達成した。

久しぶりに有観客で行われた全日本のレースは、梶原にとってさらに五輪へのイメージを加速させるものとなった。

「たくさんの方が応援してくださるなかで確実に勝つことができたというのは、自国開催の東京オリンピックの舞台でも大声援の中、その応援を力にかえて、確実に金メダルを獲得する、その目標に向けて大きな一歩になったと思います」

今まさに、梶原は夢を現実へと替えるべく進み続ける。



トラック全日本は6種目で優勝。オムニアムでも優勝するだけでなく、「アルカンシエルを取った世界王者らしい走り」を披露した

来たときよりもキレイに!
世界に示す、クリーンジャパン
KEEP EVERYTHING MORE BEAUTIFUL THAN IT WAS.
Show the world, CLEAN JAPAN!



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
公益財団法人 日本オリンピック委員会
TOKYO 2020



ROAD RACE

五輪史上、屈指の難コースに挑む4人の精鋭

男子の2枠目の争いが注目されたロードレースの代表候補だが、最終的には増田成幸がその座を勝ち取り、新城幸也と共に五輪に挑む。女子は與那嶺恵理、金子広美が選出された。

text：吉本 司　photo：辻 啓、田中 苑子、滝沢 佳奈子

欧州で活躍する新城、與那嶺がどこまで世界と渡り合えるかに注目

全ての力を懸けて超難コースに挑む

男女それぞれ2つの五輪出場枠をもつロードレース競技（個人TTは女子1枠のみ）。中でも新城幸也の次となる男子2枠目の選出は、選考締め切りとなる10月17日目前まで中根英登、増田成幸の間でもつれたが、最終的には増田が10月12日にスペインで開催されたUCIレース「プルエバ・ビリャフランカ・オルディジアコ・クラシカ」で20位となりUCIポイントを獲得。中根を土壇場で逆転し、自身初となる五輪代表候補を手にした。

一方の女子は欧州で活躍し日本人女子選手としては抜きんでた力をもつ與那嶺恵理が2大会連続で選出。もう一人は金子広美が40歳で初選出された。

今大会のコースは距離234km、獲得標高4865m（女子は距離137km、獲得標高2692m）で五輪史上屈指の難コース。4名の代表候補選手のうち新城と與那嶺は、前回のリオ大会へも出場し経験も豊富なことから上位でのリザルトが期待される。一方、増田や金子は、得意な上りの走力を生かしてどこまで上位に食い込めるかが注目だ。いずれにしても4選手とも年齢・キャリアを加味すれば自身の競技生活の集大成となる大会になることは間違いなく、必ずや熱い走りをしてくれるだろう。

INFORMATION	
競技日程	7月24日、25日、28日
開催地	スタート：武蔵野の森公園 フィニッシュ：富士スピードウェイ

MEN 日本代表候補選手



PROFILE

新城幸也 Yukiya ARASHIRO

所属…バーレーン・ヴィクトリアス
生年月日…1984年9月22日（36歳）
出身地…沖縄県
身長…170cm
体重…65kg



■ 主な戦歴

2011年　アジア選手権 優勝
2018年　ツール・ド・台湾 優勝

日本ロードレース界の絶対的エース

2009年から欧州プロチームに所属し、世界のトップレースで戦い続けて13年のベテラン。五輪はロンドン、リオに続いて3大会連続出場となる。前回は27位でゴール。経験・実績は日本人ロード選手の中でも抜きんでている。五輪の集大成として今大会での活躍が期待される。

「自国開催のオリンピックを現役選手で迎えられることは運命だと思っていました。世界中が（コロナ禍で）大変な状況下でも競技を続けられる自分の環境に感謝し、しっかり準備をして最高のパフォーマンスを発揮するだけです。皆さんも楽しみにしていてください！」



PROFILE

増田成幸 Nariyuki MASUDA

所属…宇都宮ブリッツェン
生年月日…1983年10月23日（37歳）
出身地…青森県
身長…176cm
体重…63kg



■ 主な戦歴

2014年　ツール・ド・おきなわ 優勝
2019年　全日本選手権ロード
　　個人タイムトライアル 優勝

土壇場の大逆転でつかんだ初の五輪代表

2017年にはバセドウ病を発症し選手生命も危ぶまれたが、この病気を克服して現在も国内トップクラスのロード選手として活躍する。

2020年シーズンはコロナ禍により海外遠征を思うようにできずUCIポイントの獲得に苦しんでいたものの、10月中旬に開催されたスペインのUCIレースで20位に入りポイントを獲得。土壇場の逆転劇で初の五輪代表の座をつかんだ。「東京オリンピックロードレースの日本代表候補への選出、大変光栄です。一方で、身が引き締まる思いです。日本代表の名に恥じぬ走りができるよう精進します」

（補欠選手：中根英登）

WOMEN 日本代表候補選手



PROFILE

與那嶺恵理 Eri YONAMINE

所属…ティブコ・シリコンバレーバンク
生年月日…1991年4月25日（29歳）
出身地…大阪府
身長…160cm
体重…51kg



■ 主な戦歴

2013年　全日本選手権ロード
2016年～2019年　個人タイムトライアル 優勝
2018年　アジア大会 ロードレース 3位
　　同・個人タイムトライアル 2位

リオ五輪を上回る上位の成績を期待

2016年から欧州を舞台にして世界のトップ選手と渡り合う日本女子ロードレース界の第一人者。前回のリオ大会ではTT15位、ロードレース17位という、日本選手五輪ロードレース史上最高の順位を残す。以降、着実にステップアップしており、2019年はストラーデビアンケで13位、2020年の世界選個人ロードレースでは終盤までメイン集団に残り21位でゴールするなど世界のトップに肉薄している。それだけに東京五輪では上位の成績が期待される。五輪への想いは「全てを力に変えて」という自身のホームページにもある座右の銘を述べる。



PROFILE

金子広美 Hiromi KANEKO

所属…イナーメ信濃山形
生年月日…1980年9月9日（40歳）
出身地…宮城県
身長…170cm
体重…50kg



■ 主な戦歴

2018年～2019年 全日本選手権ロードレース 2位

ヒルクライムの女王から五輪ロード選手へ

2008年からロードバイクでヒルクライムレースに挑戦し、数々のメジャー大会を制覇。後にロードレースへ本格的に参戦。得意とする上りの走力を生かして成績を残し、2011年には全日本の女子ロード強化指定選手となる。40歳にして初の五輪挑戦だが、厳しい上りのあるコースで世界を相手にどこまで通用するか注目したい。

「私がここまで走れる環境を用意してくれた、すべての方々に感謝しています。与えられたチャンスに向けて、次に繋がるきっかけとなる走りができるよう、しっかりとトレーニングを重ねていきます」

（補欠選手：樫木祥子）

ROAD RACE

新城幸也

東京五輪を戦うために やるべきことは分かっている——

3度目の五輪代表候補となった新城幸也。世界の名だたるレースを走り抜いてきた彼は、五輪史上屈指ともいえる難コースを戦うための心の準備がしっかりできている。

text：大前 仁　photo：辻 啓



2020年の世界選ロードでは序盤7人の逃げに乗り、勝負所の展開に乗る前待ちの作戦をとった

3回目の五輪、そして母国開催の五輪

新型コロナウイルスに翻弄された2020年、東京オリンピックも1年延期が決まり、予定より半年ずれて代表選手の内定が発表された。3大会連続で代表候補に選出された新城幸也にとっても激動の1年だった。

「レースが再開してから8月から10月の2か月半で40レースほどを走ってシーズンを終えました。東京オリンピックについては、中止ではなく延期になってホッとした。中止だったら『この世の終わり』と言いたいくらい本当に残念だったけれど、延期でよかった。自分がトップレベルでいる間に走る、母国開催のオリンピックは特別なレース。来夏に向けてコンディションを100%合わせていくのはもちろん当然のことです」。

東京五輪本番は距離約250km、獲得標高約5000mという過酷なコースだが、経験豊富な新城はそこでの勝負を念頭に置いている。

「三国峠と富士山を上れる力が基本ですけど、フレッシュな状態でそこをどれだけの力で上れるのか、200km走ってきてそのパフォーマンスをまた出せるのかが勝負」と言い切る。

2020年の世界選手権ロード（イタリア）、そしてジロ・デ・イタリアを走って新城が立て続けに経験した標高差5000mは、東京オリンピックに向けた確かな光明だ。



新城の競技生活における一つのハイライトになるだろう東京五輪。ファンを楽しませる走りをしてほしい

「僕が初めて250kmの世界選を完走したときには本当にヘロヘロになったけれど、今は250kmという距離に対してはまったく不安がない。200kmのレースを走るためには200kmの練習をしなきゃいけないのと一緒で、5000mの（標高差の）レースで勝負するためには5000mのレースを経験しなきゃいけない。5000mのレースは本当に少ないので、世界選とジロで経験したことで、免疫というか、身体がどうなるかを知ることができた。三国の4kmと富士の14kmを耐えられる、集団で越えられる力をまずつけること、さらに200km走ってきてどれくらいの力を出せるか、そこを鍛えるだけです」。

3度目のオリンピック出場となる新城は「無観客のオリンピックになるという噂もあるが、それはスタジアム競技でのこと。ロードレースはマラソンや競歩と並んで、ライブで見ることができる、公道で観戦できる数少ない競技なので、ぜひレースを楽しんでもらいたいと思います」と締めくくった。

会場&コース紹介❶

東京五輪 決戦の舞台

自転車競技の主となる決戦地は静岡県。トラック競技の伊豆ベロドローム、山中湖周辺と富士スピードウェイを組み込んだロードコースは、メダルを争うに相応しい素晴らしい舞台だ。　text：吉本 司　photo：田中 苑子

TRACK RACE　伊豆ベロドローム
国内初となる国際規格の室内バンク



自然光を取り込む作りの天井によって会場内の明るい雰囲気を実現している

DATA
住所：静岡県伊豆市大野1826
周長：250m
最大カント：45度
大会時収容人数：3600人



日本サイクルスポーツセンターの敷地内にある銀色の建物が伊豆ベロドロームだ

高速バンクで期待される激しい闘い

トラック競技の会場となるのは静岡県伊豆市にある「伊豆ベロドローム」。日本のサイクリストにとってはお馴染みの〝自転車の国〟「日本サイクルスポーツセンター」の一角にある。日本の自転車競技の普及と世界レベルの選手の育成・強化を目的に計画され、2011年10月1日に国内初となる室内型木製自転車専用競技場としてオープンした。

UCIが定める規定を満たすべく作られたこの木製バンクは、一周250m、最大45度のカント（傾斜）をもつ。設計は世界的にも有名なドイツ人のバンクデザイナー、ラルフ・シューマン氏によるもの。材料となるシベリア松もドイツから輸入され、ドイツ人のスタッフと共同で作り上げられた。そして、このバンクを最適な状態とすべく、室内の湿度は45%～65%となるよう空調は維持されているという。タイムが出やすい高速バンクという評判だけに、東京五輪本番でもスピーディな展開の白熱した戦いが見られるはずだ。

ROAD RACE　START 武蔵野の森公園 ▶ FINISH 富士スピードウェイ
獲得標高4865m（男子）の超難コース！

DATA
スタート：武蔵野の森公園
フィニッシュ：富士スピードウェイ
総距離：234km（男子）、137km（女子） ※パレード区間10km除く
獲得標高：4865m（男子）、2692m（女子）



コースは山中湖の湖畔を通過する。当日は山中湖から望む美しい富士山の景色も世界に向けて配信されるだろう

平均勾配10%の三国峠が勝負所

五輪のロードレースといえば周回コースで争うことも多いのだが、東京五輪は東京都府中市の府中の森公園をスタートし、静岡県駿東郡小山町の富士スピードウェイにゴールするラインレースだ。距離は男子234km、女子137km※。獲得標高は男子4865m、女子2692mにもおよび、五輪史上最も過酷なコースとの呼び声も高い。

勝敗の行方を左右するのは、やはり道志みちを終えてから。識者によると富士山麓区間にあるエバーグリーンラインあたりから、このコース最大の難所である三国峠での争いに備えて集団の動きが活発化するという。そして200km以上走って迎える平均勾配約10%、最大勾配18%の三国峠では、各国のエースたちによるつば迫り合いが見られるだろう。クライマーの選手がここで大きなタイム差を得られなければ、その後の篭坂峠の下りで追いつかれてしまい、複数人でのゴールスプリントによって勝敗が決まる可能性がある。





高度なスキルが求められる最もハードなコース

MOUNTAIN BIKE XCO

前回のリオ五輪時よりも環境面を充実させた山本幸平が4大会連続で選出され、女子は小学校教員としての本業をもつ今井美穂が夢を叶えた。

text & photo : 猪俣 健一

ベテランの技術力を生かした山本幸平の走りに注目！

五輪史上最も高スキルが求められる

静岡県伊豆市の日本サイクルスポーツセンター内に作られた伊豆MTBコースで行われるマウンテンバイクXCO（クロスカントリー）。日本代表枠は男女ともに1名ずつとなり、UCIポイントランキングによって山本幸平と今井美穂がその座を手にした。

山本幸平は2008年の北京オリンピックから4大会連続での出場であり、東京2020が第一線で走る集大成の大会になることを表明している。伊豆のコースは、過去の大会と比較してフィジカル面と同時に高度な技術力が求められるハードなものになった。ベテランの経験を生かした走りで前回大会の21位を上回っての入賞が目標となるだろう。

前回のリオ五輪では惜しくも出場枠を獲得できなかった女子だが、東京2020では開催国枠が割り当てられたこともあり、今井美穂が選出された。日本国内では3年連続で全日本タイトルを獲得している今井。ポイントとなるのは、やはり下りのロックセクションも多い伊豆のコースにどこまで対応できるかになる。1年延期の逆境をプラスととらえ、大会本番までにスキル面を強化して、世界レベルの走りを見せられるかが活躍のためのカギとなるだろう。

INFORMATION	
競技日程	7月26日～7月27日
開催地	伊豆MTBコース 住所：静岡県伊東市大野1826

MEN 日本代表候補選手





PROFILE

山本幸平　Kohei YAMAMOTO

所属 … ドリームシーカー MTBレーシングチーム
生年月日 … 1985年8月20日（35歳）
出身地 … 北海道
身長 … 182cm
体重 … 70kg

主な戦歴

2008年～2013年　全日本選手権XCO 優勝
2015年～2020年
2009年～2016年　アジア選手権 優勝
2018年～2019年

キャリアの集大成となる東京大会の走りに注目！

2008年の北京オリンピックから4大会連続出場となる山本幸平。これまでの大会では北京46位、ロンドン27位、リオ21位と着実に順位を上げている。リオ五輪後は2017年に結婚し翌年には愛娘も誕生。2019年より自らチームを立ち上げるなど環境面で充実したなかで、キャリアラストの五輪に挑む。

「日本代表として、皆の期待に応えるために、練習に励み、本番で最高の走りをします。それと同時に、残された期間で若手選手と切磋琢磨して皆で強い日本チームを作り上げ、今後のマウンテンバイクの発展に貢献していきたい想いです」

（補欠選手：平野星矢）

WOMEN 日本代表候補選手





PROFILE

今井美穂　Miho IMAI

所属 … CO2bicycle
生年月日 … 1987年5月29日（33歳）
出身地 … 群馬県
身長 … 161cm
体重 … 54kg

主な戦歴

2018～2020年　全日本選手権 MTB-XCO 優勝
2020年　アジア選手権 MTB-XCO 5位

夢を叶えた初出場躍動に期待！

小学校教員という本職をもちながらシクロクロス競技をはじめ、続いてMTBのキャリアもスタート。選考期間がはじまったタイミングでは海外のレースすら走ったことが無いなかで、幼い頃からの夢だったというオリンピック代表の座をつかんだ。

「幼い頃から漠然とオリンピック選手になりたいという夢を描いてきました。自国開催でもある、東京オリンピックの代表選手に選出され、夢を叶えることができたことを本当にうれしく思っております。延期をプラスととらえて自身のフィジカルとスキル面を向上させていきます」

（補欠選手：川口うらら）





自国初開催でメダル獲得なるか！

BMX FREESTYLE

東京2020から初採用されるBMXフリースタイル・パーク。中村輪夢と大池水杜、日本の両エースはともにメダル候補だ！

text & photo : 猪俣 健一

ワールドカップ優勝者が挑む晴れの舞台

自転車競技唯一の採点種目

東京2020から初採用となるBMXフリースタイル・パーク。さまざまなセクションが設けられたパークを自在に使用した60秒間のなかでジャンプなどのトリックを繰り出す。東京2020で開催される自転車競技のなかでは唯一の採点競技であり、男女それぞれ9名の選手によって争われる。

日本代表に選出されたのは中村輪夢と大池水杜の2名。どちらもワールドカップでの優勝経験者であり、金メダル獲得の期待も高まる種目だ。

2019年のワールドカップ最終戦を制し、同時に日本人としてはじめてシリーズチャンピオンにも輝いた中村輪夢。UCIランキングも全日本選手権を制したことで第3位（2020年12月15日現在）とメダルの期待が高まる位置にいる。

女子で代表に選ばれた大池水杜は2018年のワールドカップ、フランスモンペリエ大会で日本人として初優勝を達成。選手層が薄い日本女子のシーンを牽引してきた存在だ。

両選手とも自国開催となる東京2020では、参加選手のなかで最も多く受ける応援を力に変えられるかがメダル獲得のポイントとなるだろう。

INFORMATION	
競技日程	7月31日、8月1日
開催地	有明アーバンスポーツパーク

MEN 日本代表候補選手





PROFILE

中村輪夢 Rim NAKAMURA

所属 … ウイングアーク1st
生年月日 … 2002年2月9日（18歳）
出身地 … 京都府
身長 … 170cm
体重 … 62kg

主な戦歴

2019年	UCIワールドカップ広島大会 2位 UCIワールドカップ中国大会 優勝 UCIワールドカップ 総合優勝
2019年	アジア選手権 優勝
2017年 2019-2020年	全日本選手権 優勝

トップクラスの実力で金メダル獲得なるか

BMXライダーでBMXショップを経営する父、辰司さんの影響で3歳から乗りはじめ、18歳ながらすでにキャリアは15年に達している。昨年のワールドカップでは総合優勝を達成するなど、世界トップクラスの実力をもつ。誰が勝ってもおかしくない顔ぶれのなかで、自国開催で高まる感情を力に変えられれば表彰台の頂点に立つはずだ。

「オリンピックでは結果を求めるのはもちろんだが、競技時間1分間のなかで自分の思いどおりの走りをするのが目標。1年間延期になってしまったことを力に変えて、本番までにさらに成長したい」

（補欠選手：髙木聖雄）

WOMEN 日本代表候補選手





PROFILE

大池水杜 Minato OIKE

所属 … ビザビ
生年月日 … 1996年12月2日（24歳）
出身地 … 静岡県
身長 … 170cm
体重 … 60kg

主な戦歴

2018年	UCIワールドカップフランス大会 優勝
2019年	UCIワールドカップ広島大会 4位
2017-2020年	全日本選手権 優勝
2019年	アジア選手権 優勝

オリンピックを楽しんでの結果に期待したい

安定したトリックでワールドカップも制し、全日本選手権も3連覇のフリースタイル女子選手を牽引する存在。練習環境が整ったことで、さらにトリックに磨きをかけてオリンピックに臨む。

「代表に選ばれて本当にうれしい。1年延期になってしまったことはプラスに考えるしか無いと思っている。拠点の岡山に天候に関係なく乗れるインドアで練習場ができたので、環境が充実した。BMXフリースタイルはまだまだ日本国内では知られていない競技なので、私が楽しく乗っている姿を見てもっと知ってもらいたい」





メダル獲得を目指し
パワーコースに挑む

BMX RACING

これまでよりもペダリングパワーが求められるコースへと変更されたBMXレーシング。男女ともワールドカップでトップ8に入る実力をもつ代表が選出された。

text & photo：猪俣 健一

長迫吉拓と畠山紗英がメダル獲得を目指して走る

決勝に進出すれば メダルのチャンスあり

BMXレーシングは、8mの高さのスタート台から最大8人による一斉スタートでジャンプやコーナーが連続する400mほどのコースで順位を争う。東京2020のコースは前回よりもペダリングの力が求められ、男女とも24名で争われる。日本代表は男女1名ずつで長迫吉拓と畠山紗英が出場する。

男子は2大会連続出場の長迫吉拓で2020年のワールドカップ第1戦で6位に入り、代表の座を決定づけた。2013年に日本人で唯一となる世界選手権で7位入賞を果たしており、当時の好調が戻ってきた印象だ。

女子は2019年のワールドカップで2度の決勝進出を果たし畠山紗英が代表の座をつかんだ。畠山はユース時代から海外遠征経験が豊富でワールドチャレンジ大会（年齢別世界選手権）で3度優勝経験をもつ。さらにジュニア時代には世界選手権で表彰台こそ逃したものの4位の成績を2回残している。はじめてのオリンピックでも臆することなく実力を発揮するはずだ。

長迫も畠山にもいえることだが好成績のカギとなるのが、決勝へと順当に勝ち上がること。上位8人による決勝で実力のすべてを発揮できればメダル獲得のチャンスは十二分にあるといえる。

INFORMATION

競技日程	7月29日、30日
開催地	有明アーバンスポーツパーク

MEN 日本代表候補選手





PROFILE

長迫吉拓 Yoshitaku NAGASAKO

所属 … 日本写真判定
生年月日 … 1993年9月16日（27歳）
出身地 … 岡山県
身長 … 175cm
体重 … 76kg

主な戦歴

2013年	世界選手権 7位
2016年	リオ五輪 30位
2018年	アジア競技大会 優勝
2020年	ワールドカップ第1戦 6位
2011年～2015年 2017年、2020年	全日本選手権 優勝

メダル獲得を目指す ラストレースに注目

2大会連続の出場となる長迫。平行してトラック競技でも強化指定を受け、チームスプリントの第1走として出場のワールドカップで優勝するなど、多方面で活躍する。2020年のBMXワールドカップ第1戦で6位に入り、自身のベストリザルトを更新しているだけに、決勝進出は十分に見込める。今大会が年齢的にピークを迎え、有終の美を飾りたいと公言しており、メダル獲得できるかに注目だ。

「2回目の出場だが自国開催ということで、違う雰囲気を感じている。ベストなパフォーマンスができるように頑張りたい」

（補欠選手：中井飛馬）

WOMEN 日本代表候補選手





PROFILE

畠山紗英 Sae HATAKEYAMA

所属 … 日本体育大学
生年月日 … 1999年6月7日（21歳）
出身地 … 神奈川県
身長 … 162cm
体重 … 64kg

主な戦歴

2016年、2017年	世界選手権（ジュニア）4位、5位
2016年～2017年	全日本選手権（ジュニア）優勝
2018年	世界選手権 15位
2019年	ワールドカップ第8戦、第10戦 8位

日本人女子として はじめての出場

ユース時代から世界大会で優勝するなど輝かしいキャリアを残してきた畠山紗英にとって待ち望んだ晴れの舞台が東京2020だ。初出場となるオリンピックでベストなパフォーマンスを発揮できれば、メダル獲得のチャンスは十分ある。

「選考対象となる最後の大会前にケガをしてしまい不安だったが無事に選ばれてほっとしている。出場するからにはより良い結果を目指して頑張りたい。延期となったことで技術面などの改善点を見直す時間ができ、よりパフォーマンスアップできると思う」

（補欠選手：丹野夏波）

NISSHO ESTEM GROUP 30th ANNIVERSARY
おかげさまで、創業30周年

あなたの街と
未来を変えていく。

日商エステムグループは、資産運用型分譲マンション、
ファミリーユースから都市型分譲マンション、
そして都市型一戸建住宅分譲まで
大阪、名古屋、東京、横浜の四大都市を中心に全国へと展開。
数多くの実績を重ね、事業エリアを広げ続けています。
そう、あなたのそばにもきっと、
私たちの創造するマンションがあります。

●物件情報続々公開中！ エステムコート 検索

NISSHO ESTEM GROUP 日商エステム・グループ
株式会社 エステムホールディングス
株式会社 日商エステム
株式会社 東京日商エステム
株式会社 沖縄日商エステム
株式会社 エステム住宅販売
株式会社 イー・トラスト
株式会社 エステムプランニング
株式会社 エステム管理サービス
株式会社 リプラブ
株式会社 イーテック
株式会社 エステム保証サービス
株式会社 エステムホーム



ワールドカップ代表選考に臨む長迫。7年ぶりにベストリザルトを更新するなど調子は上向いている

BMX RACING

長迫吉拓

逆境から立ち直って目指すもの

新型コロナウイルス感染症の影響で練習環境も大きく変わった長迫吉拓。最低まで落ちてしまったというレベルから立て直し、東京での躍進に向けて手応えを感じているという。

text：猪俣 健一　photo：Nico van Dartel、猪俣 健一



自身の環境を再構築してオリンピックに臨む

ワールドカップで2019年の初戦から2020年の第4戦までのうち、準決勝に2回以上進んだ選手を選考するという基準を男子で唯一クリア。2020年の初戦では自身のベストリザルトを更新する6位に入り、リオ五輪から2大会連続で代表の座をつかんだ長迫吉拓。スイス・エイグルのワールドサイクリングセンターを拠点に活動し、集大成となる東京に万全の準備で臨めるはずだった。しかし新型コロナウイルス感染症の影響で施設の一時閉鎖が決定し3月22日に帰国。さらに自主隔離中の3月24日に東京2020の1年間延期が発表された。

「帰国して練習環境が変わったことでパフォーマンスの低下は正直ものすごくありました。トレーニングできなくなったことで体重も落ちてしまい、モチベーションも下がってしまった。自分として最低なレベルまで下がったと思う。そこから立て直して100%ではないが戻ってきている」

オリンピックレベルのコースで不自由なく乗れ、トレーニング施設も整った環境からの変化は大きかったと語る。それでも地元の岡山県笠岡市とBMXと平行して活動するトラックチームの拠点である伊豆市を行き来する生活の中で環境を整えていったという。ホームでは太陽の広場BMXコースでの練習に加えて、実家のバラ園の一角にトレーニングジムを構築。さらに幼少の頃に長迫を指導していた岡山県BMX協会の元会長の藤原義光氏によってオリンピック規格である8mの高さのスタート台が整備されるなどの支援も受けた。

「自国でオリンピックが開催されることに強い思いはある。ただしそれが自分にとって必ずしも有利になるとも考えていない。東京のコースは今まで以上に持久力が求められる。総合的に強い選手が勝つコースと考えていて、同時に手応えを感じている」

リオ五輪までの下り斜面に作られていたコースとは異なり、東京はフラットな場所に作られており距離も長い。これまでよりもハードなコースだが自信を覗かせる長迫。

「現在の目標はモチベーションを絶やさず日々トレーニングを重ねて、昨日の自分よりレベルアップしていくこと。その後オリンピックに向けて照準を合わせていく」

そう語る長迫は10月に2016年以来となる全日本選手権に出場。リオ五輪前に惜敗した苦い思い出がある大阪のコースで7度目の優勝を果たした。そして11月にはエイグルへと戻り、東京2020に向けてさらなるレベルアップを図っている。



長迫の練習環境を支援するためにオリンピックと同様の高さのスタート台が製作された

会場&コース紹介❷

東京五輪 決戦の舞台

日本代表選手にとっても晴れの舞台となる東京オリンピック。マウンテンバイクが伊豆MTBコースで、BMXが有明アーバンスポーツパークで開催される。 text & photo：猪俣 健一

MOUNTAIN BIKE　伊豆MTBコース 高いスキルが求められるハードなコース



日本らしい飾り付けも印象的だが、選手にとっては非常にハードなコースだ

DATA
住所：静岡県伊豆市大野1826
全長：4100m
高低差：150m
大会時収容人数：3600人



伊豆の名所をイメージしたセクションが点在

静岡県伊豆市のサイクルスポーツセンター内に作られた伊豆MTBコース。全長4100m、高低差150mのコースには、伊豆の名所や日本にちなんだ「天城越え」や「浄蓮の滝」、「枯山水」といったセクションが作られ、富士山も望めるポイントも設定されるなど風光明媚かつ見どころも多い。しかし選手にとっては、フィジカル面はもちろんのこと、難しいロックセクションの下りを高速で駆け抜ける高いスキルも求められるハードなコースが牙をむく。男女とも38名の選手が一斉に走り出すスタートは必見、出遅れてシングルトラックに入ってしまうと実力のある選手でも順位を挽回するのは難しいだけに、1周目のダッシュで好位置につけることが上位争いの必須条件になる。すべてにおいて総合力の高さが求められるコースといえ、約1時間半の競技時間のすべてで白熱のバトルが予想され、ギャラリーにとっても一瞬も気を抜けないレースが展開される。

BMX RACING & FREESTYLE　有明アーバンスポーツパーク ウォーターフロントエリアで熱戦が繰り広げられる

BMX RACING

ダートのストレートをバンクのついた舗装のコーナーでつなぐ全長約400mのコースで争われる



持久力も必要とされるコース

8mの高さから最大8名の選手が横一線でスタートするトップ争いは圧巻で、最高速度は60km以上に達する。4つのストレートをつなぐコーナーはアスファルト舗装されたバンクになっておりハイスピードを維持したままジャンプをこなして約40秒でフィニッシュする。つまりスタートからフィニッシュまで終始一瞬の判断が勝負の明暗を分けることになる。これまでのオリンピックでは緩い斜面にコースが作られ、フィニッシュまで下り基調の設定だったが、東京のコースはフラットな路面に作られており、終盤でペダリング力のある選手が逆転することもあり得る。瞬発力とジャンプのテクニックと同時に、持久力も求められるコースである。

DATA
住所：東京都江東区有明一丁目7番
収容人数：5000人（BMXレーシング）、6600人（BMXフリースタイル）
距離（BMXレーシング）：495m

BMX FREESTYLE

さまざまなセクションが配置されるパーク。決勝で繰り出す大技に注目が集まる



©Tokyo2020

選手の想像力も試される

東京オリンピックではじめて正式種目に採用されるBMXフリースタイル・パーク。男女とも9名ずつで争われ、パークを自由に使って空中で後方に回転するバックフリップや、ハンドルを持ったままバイクを回転させるテイルウィップなどのトリックを繰り出し採点によって順位を競う。また回転軸をずらしたり複数回回転したり、さらには1回のジャンプで複数のトリックを入れるなどで選手の個性が発揮される。特別な舞台でどんなトリックを繰り出すか選手の想像力が問われる一面もあり注目だ。決勝の滑走順を決めるシーディングが60秒のランを2回実施した平均で争われるが、決勝はベストなスコアで順位が決まるため、大技も出やすい傾向にある。



CX TRAINING CAMP

JCFが“初”主催する「シクロクロス合宿研修会」

10月に開催された若手を対象とした合宿に、シクロクロス強化選手が12名参加した。

text & photo：田中 苑子



男女各6選手が参加。年齢やキャリアに開きはあったが協力し合い和気藹々とした雰囲気に



「若い選手の可能性は未知数なので経験を積ませたい。今後も継続的にやり、少しでも競技先進国に近づいていきたい」

〈三船雅彦 コーチ〉

「同じ世代で刺激し合うのはとても大事なこと。相互理解を深めて、ナショナルチームとして強くなりたい」

〈辻浦圭一 コーチ〉





実技講習では基礎を確認。自転車に乗ると笑顔が多く見られた



チャンピオンシステムが代表ウエアのフィッティングを行う



国内屈指の専門家によるアンチ・ドーピング講義

10月3日、4日に富士見パノラマリゾート（長野県）にて「2020年度シクロクロス合宿研修会」が実施され、女子、男子ジュニア・ユースカテゴリーを中心にシクロクロス強化指定選手が12名参加した。今回、JCF主催として初めてシクロクロス選手を対象に実施された合宿は、世界をめざす選手、スタッフ（コーチ、メカニック、審判）、競技連盟が集い、相互理解を深めることを第一の目的として、コミュニケーションを高め、お互いに助け合うといったチームを編成して海外で戦うための基礎的な要素に重きを置いた。

コーチを務めたのは、三船雅彦氏と辻浦圭一氏。ともに競技の本場、オランダやベルギーを拠点に世界トップクラスの大会で活躍した実績をもつ。選手たちが楽しみにしていた実技講習は、ゲレンデ内のオフロードや近郊のオンロードを使用して行われ、タイヤの空気圧設定や障害物に対する体重移動、コーナーでのペダリングなど、ベーシックな内容を再確認。経験豊富なコーチの的確な指導により、若手中心の選手たちはすぐに改善点を見い出した。

また座学では、JCFアンチ・ドーピング委員会作業部会員の本田昭二先生やナショナルチームの小林輝紀メカニックが、若い選手にもわかりやすく、かつ実用的な講義を展開。さらに選手からの質問にコーチ陣が答え、ナショナルチーム公式サプライヤーのチャンピオンシステムによる競技用ウエアのフィッティングも行われた。

最初は緊張していた選手たちだったが、合宿を通じて多くのことを学び、仲間とも打ち解け、次第に笑顔が増えていったのが印象的だった。近年、高いポテンシャルをもつとして注目が高まるシクロクロス競技。これまでナショナルチームは、海外遠征時のみ編成されていたが、今回、JCF主導で強化指定選手を集めて合宿を行なった意味合いは大きい。ナショナルチームとして今後さらに団結して戦うために、大きな一歩を踏み出した。

DESCENTE

Design that moves

あなたを動かす、すべてになる。

大谷 翔平

デサントジャパン株式会社　お客様相談室（フリーダイヤル）0120-46-0310　descente.com　descente_athletic



NEW CYCLING AGAINST THE COVID-19 PANDEMIC.

東京オリンピックが延期となる大波乱……

2020年、コロナ禍に立ち向かう自転車競技界

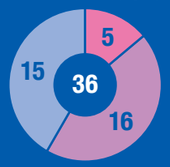
新型コロナウィルス感染拡大に伴い、
大きく揺れた国内外のレースシーンを振り返る。

text : 田中 苑子、猪俣 健一(P.27)　photo : 辻 啓、田中 苑子、宮島 正典(P.26)、猪俣 健一(P.27)

〈2020年 ロードレースの開催実績〉

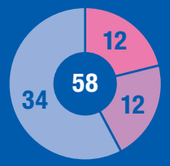
予定通り開催　日程変更し開催　中止

・UCIワールドツアー



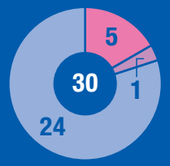
最高峰のシリーズ戦は徹底された“レースバブル”のもとでシーズン再開後、比較的多くの大会が開催された

・UCIプロシリーズ



2020年から初開催された第2ディビジョンのシリーズ戦。開催国のイベント規制により中止される大会も多かった

・UCIアジアツアー



大陸をまたぐ移動に制限が残り、シーズン再開後アジアで開催された大会は1つのみ。日本では全ての国際大会が中止された

夏からシーズンが再開
感染リスクを排除し、
安全な環境下で大会開催へ

2020年、新型コロナウィルス(COVID-19)感染拡大に伴い、自転車競技界はほかのプロスポーツ同様大きな打撃を受けた。

自転車競技において初めてCOVID-19の影響が表面化したのは、1月下旬に発表された2月23日開幕予定のツアー・オブ・ハイナン(中国)の中止だった。その後、ヨーロッパ諸国で急激な感染拡大が起こり、2月23日からのUAEツアーではチームスタッフ2名がPCR検査で陽性となり、大会は2ステージを残して中止。追加検査では選手を含む6名の陽性がさらに判明し衝撃が走った。

そしてUCIは3月15日からすべてのUCI公認大会の中止を決定。その中止期限を7月1日まで、男女ワールドツアーについては8月1日までとし、世界各国でロックダウン措置が取られ、多くのプロ選手たちが屋外でトレーニングできない日々を送る。

夏を迎えると徐々に状況は改善され、シーズン再開にあたり、UCIは“レースバブル”構築を各チームや主催者に求めた。これは徹底した検査で陰性を保つ選手やチームスタッフ、レース主催者を仮想の安全な“バブル”の中に入れ、外部との接触を断つこと。最大限の感染予防対策のうえで、COVID-19終息を待たずに、レース再開に踏み切った。

その後、UCIワールドツアーは11月8日までに21大会が開催された。その間、各チームが行ったPCR検査の総数は13,850件で、うち陽性は54件(選手は約半数)だった。陽性率は0.34%であり、開催各国の陽性率と比較すると、その数値は著しく少なく、関係者たちの努力が実を結び、UCIも対策に手応えを得た。



レース中を除いて選手たちはいつもマスクを着用する。できることはすべて行いレース再開を迎えた

ACTION. 1
トラック全日本選手権

徹底した感染対策により、
成功した有観客での室内大会



競技者にとって日頃の練習の成果を発揮する場所は大切、と声を揃えた中野浩一委員長(左)と佐久間重光会長(右)

国内ではJCFは大会運営の指針とするコロナ禍における競技ごとの詳細なガイドラインを作成した。そして緊急事態宣言後、JCFが主催する最初の全国規模の大会となったのは、9月下旬の長野県美鈴湖自転車競技場でのJOCジュニアオリンピックカップ。その後、12月までにトラック、MTB、BMX、シクロクロスの全日本選手権など多くの大会が開催された。

なかでも注目を集めたのは11月上旬に群馬県ヤマダグリーンドーム前橋にて開催されたトラック全日本選手権。ほかの大会とは異なり、室内での大会であったが、有観客での開催を決断。東京五輪代表内定選手が顔を揃える大会とあって、ファンからは喜びの声が溢れた。

今大会開催にあたっては11月という時期により屋外での開催は難しい。そのため室内の会場が候補となったが、グリーンドーム前橋は空調・換気に問題なく、会場における選手や関係者一人あたりのスペースも地域の基準をクリアした。前橋が伊豆よりも広い333mバンクであったことも幸いした。そして選手と役員、メディアの動線を完全に分け、トイレなどの共有部分も別になるように徹底。その他、三密回避など基本的な感染予防策を実施した。

会場で大会を視察していたJCFトラック委員会の中野浩一委員長とJCF佐久間重光会長、大会開催にあたってのキーパーソン二人に話を聞いた。

中野委員長「全日本選手権というのは国内で一番権威ある大会であり、選手たちには練習の成果を出す場が必要。それがあることで次に繋がっていく。代表内定選手は全体的にレベルアップしてきている。ナショナルチームが強くなることによって、若い選手たちが目標にしてくる。ピラミッドの頂点を高くしないと、なかなか裾野は広がってこない。パリまでも3年しかないので、今大会では次世代の選手にも注目でき、開催の意義は大きかったと思う」

佐久間会長「自転車競技においては現実的にソーシャルディスタンスを保てない種目がある。しかしタイムトライアルやスプリントだけでやるのがいいのかというと違う。やはり、安全に十分に配慮し、リスクを少し覚悟したうえでやるしかないと思った。感染を起こさないこと、万が一感染者が出た場合に拡大させないこと、その二つを心掛けた。とにかくいまは競技の“熱”を下げたくなかった。オリンピック前年に全日本選手権がないというのは、弾みがつかないと思ったし、代表内定選手が活躍していることを見ても、やはりリスクを極力押さえた上で前に進むしかなかったと考えている。ありがたいことに室内での開催ができ、多くのお客様の声援をいただけたことは、コロナ禍での大会開催の意義を理解し支援していただけたのだと思う。厳しい状況は続くが、今回全日本選手権を開催できたという経験を生かして、さらに前に進みたい」



観客席は一定の間隔をあけて配置され、インフィールドも選手、役員、メディアのスペースや動線がはっきりと分かれていた





左／関係者入口ではサーモグラフィによる検温や手指消毒、健康チェックが行われた
右／選手たちは競技中以外はマスク着用を徹底され、表彰台でも社会的距離が保たれた





左／体調管理をチェックするシートをすべての関係者が毎日提出するルール
右／共有スペースはすべて選手・関係者で別の動線を設定。両者間での会話も極力禁じられた

ACTION. 2
欧州トップチームの取り組み



PROFILE

宮島正典 マッサー

10年以上にわたり欧州トップチームや日本ナショナルチームで活躍するマッサー。2020シーズンは世界最強チームの一つ、チームイネオス所属。確かな腕前と人当たりの良い明るい性格で選手やスタッフからの信頼が厚い。

グランツール“バブル”のなかで働く宮島マッサーが直面した感染対策

欧州トップチームで働く宮島マッサーは「いつ自分が陽性になるかわからない、いつレース自体が中止になるかわからない…。こんな状況で、さらにさまざまな感染予防対策が求められ、選手をはじめチーム関係者すべて疲れていたのは事実です」と、この特別なシーズンを振り返る。



ちなみに“バブル”に入るためには、ワールドツアーではレース前2回のPCR検査を受け、レース中は家族を含めて部外者との接触は許されない。毎朝検温、体調の報告を義務つけられ、全てチームのコロナ担当ドクターに管理される。

チームは以前より徹底した感染症対策をとり消毒の徹底、選手への食事の管理など行ってきたが、追加的にマッサージ中のマスク着用、エプロンの着用、使い捨てシーツの利用などが取り入れられた。さらには「スタッフに対してまでも行った食事や衛生管理が印象的だった。レース中は、スタッフまでもホテルの食事ではなく、チームシェフが作る食事を外で取っていた。雨の日は雨宿りしながらか、部屋での食事…。食事を全く楽しめませんでした」。

そして関係者の尽力により無事にシーズンは閉幕した。早く世界中でストレスなくスポーツが行われること、それが宮島マッサーたち現場スタッフの切実な願いだ。



ツール・ド・フランスで設置されたCOVID-19検査ブース。通常以上の感染対策がすべての関係者に徹底された



チームのスポンサー、イネオス社が製造した手指消毒剤。イネオスは消毒剤を運ぶ物流支援も行った



スタッフ用の食事場所。忙しく働くスタッフにとって食事はリラックスする貴重な時間だが、これでは楽しめない

ACTION. 3
UCI eスポーツ世界選手権



仮想空間ワトピアが舞台。レースの様子はインターネット上でライブ配信された



ナショナルジャージに身を包み、フランスから参戦した別府史之

オンラインでのバーチャルレースで世界中の選手が熱戦を繰り広げた

コロナ禍でのeスポーツの盛り上がりに着目し、12月9日にUCI主催のeスポーツ世界選手権が初開催され、日本代表として別府史之、増田成幸、與那嶺恵理、樫木祥子がそれぞれの滞在場所から出走。公平を期すために参加選手へは同機種のスマートトレーナーが届けられ、アンチ・ドーピングへの選手としての役割と責務が課された。もちろん勝者にはアルカンシエルが贈られる。

当日は世界中から132選手が出走し、ワトピアとよばれる仮想空間に設定された約50kmのコースで初代王者の座をかけて熱戦を繰り広げた。日本勢は上位入賞はならなかったが、男子はドイツのジェイソン・オズボーン、女子は南アフリカのアシュレー・ムールマンが勝利した。

ACTION. 4
全日本BMX連盟の取り組み



BMXレースで勝利するために最も重要なスタートゲートのテクニックを指導

年齢別世界選代表向けにハイレベル講習会大東建託エリートアカデミーを実施

新型コロナウイルス感染症により世界選手権大会が中止になるなどBMXレースにも大きな影響があった2020年。その影響はエリート選手のみならず、世界選手権と同時開催されるワールドチャレンジに出場予定の選手も活躍の場を失った。全日本BMX連盟ではオフィシャルパートナーの大東建託の支援を受けて、代表選考されていたユース選手に向けてレベルアップの機会を提供するエリートアカデミーを実施。講師陣はJCF BMX強化コーチの三瓶将廣と元全日本王者の吉村樹希敢、さらに五輪代表候補の長迫吉拓など豪華な面々。自らの経験も踏まえた世界で勝つための指導に、3日間で6歳から16歳までの53名が参加した。



年齢層で2つに最大10名程度のクラスに分けて、細やかな指導を行った



ライディングフォームの指導を行う吉村樹希敢。指導は基礎から応用まで多岐にわたる



世界レベルで多くなる接近戦を想定し、間隔を詰めて走る実戦的な練習も採り入れた



あえてフラットな滑りやすい路面でコーナースキルを高めるトレーニング。先頭は長迫吉拓

緊急事態宣言下でいち早く自宅&近隣でできるトレーニング動画を展開！

緊急事態宣言発出によってステイホームを余儀なくされるなかで、BMXコースに行かずともテクニックを高められる動画を4月23日より毎週配信した。
全12回にわたる動画のなかで前半は自宅にいながらできるトレーニング、後半はBMXに乗って自宅近隣でできるスキルアップ法を紹介した。
BMXレースの基本でもあるスタートからはじまり、ジャンプやコーナリングの基礎テクニックまでを網羅。BMXライダーのみならず、MTBやロードバイクの愛好者の基礎スキルを向上させる動画で好評を得た。

https://www.youtube.com/c/JBMXFchannel







発表に伴い共同記者会見を実施した。左より中野浩一（本連盟トラック委員会委員長）、木村美樹氏（ケイドリームス代表取締役）、佐久間重光（本連盟会長）

楽天グループのケイドリームスがトラックレース強化事業を支援！

photo：若生 武則（KEIRIN MAGAZINE）

Q&A

民間企業として初の支援を決定

日本自転車競技連盟とインターネット勝者投票券（車券）購入サイト「Kドリームス」を運営する株式会社ケイドリームスは共同でトラックレース強化事業を支援し自転車競技振興に取り組むことを合意した。民間企業がトラックレースの強化事業を支援するのは今回が初めてのこと。これにより強化指定選手「B」まで奨励金の支援対象を広げ、より多くの選手育成強化とキャリア支援を図るなどの取り込みを実施し、次世代の自転車競技人口の拡大につなげていく。

新たな取り組み

1. トラックレースの強化指定選手の支援対象拡充
2. 有望なトラックレース競技者を対象とした育成強化事業「HPCJC」の支援
3. 「Kドリームス」のサイト上に特設ページを開設し、トラックレースの配信やイベントを実施
4. その他、トラックレースの強化事業に関わる取り組みを共同で推進

Kドリームスとは？

2008年に重勝式車券を発売開始して以来、10年以上インターネット車券購入サイトとしてサービスを展開。2017年からは日本自転車競技連盟のオフィシャルスポンサーとして支援をしてきた。今回のトラックレース選手の強化支援を通して、競輪のレースの魅力向上に貢献するとともに、従来の競輪ファンに加えて自転車競技ファンへ「Kドリームス」の認知を高め、新たなユーザーの獲得を目指す。

トラックレースへの支援をする理由とは

当社のインターネット車券購入サービスとの親和性が高いと考えているためです。競輪選手がナショナルチームに参加し強い選手がたくさん出ることで、競輪ファンが拡大し競輪業界も活性化されると考えます。自転車競技がさらにメジャーになるためには、国際大会でメダルを常に獲得できることが必要です。それには、若いアスリートによって選手層が厚くならなければならないと考えており、支援に取り組むことにしました。またトップレベルの大会を多くの方に見てもらい自転車競技の面白さを伝えるため、インターネットを活用して、自転車競技ファン、競輪ファンの増加を実現していきます。

若手選手をはじめ期待する成果

トラックレースの種目は、多岐にわたりその魅力もさまざまです。短距離、中長距離問わず多くの選手がナショナルチームを目指して強化指定選手を希望してより強くなることで、今まで知られていなかった種目でも国際的に活躍する選手が出てほしいと考えています。若手の選手については好成績を収めていただきたいということはもちろんですが、個々人の個性・魅力にあふれる選手がたくさん出てきてもらいたいと思います。強さという、ものさしだけでなく、自転車競技にかける意気込みや想いは必ずファンの心に届くものだと考えています。

競輪とトラックレースの相乗効果

競輪ファンは、中野浩一さんのように、いつの時代も強い選手を望んでいます。つまりトラックレースで磨いた実力を競輪で発揮することが競輪業界の活性化につながります。また、競輪選手のアスリートとしての魅力を伝えることで、自転車競技ファンが競輪に目を向け拡大していくと考えています。さらに、競輪選手がトラックレースのプロとして幅広い自転車競技の選手に認知され、短距離だけでなく中長距離競技からも競輪への出走する選手が増えるのも期待しています。競輪選手層が厚く魅力あるレースが増えれば、中長期距離選手のキャリアの幅も広がります。



2015年ジュニア世界選手権でのポイントレースで優勝した経歴をもつ今村は今後が期待されている次世代の選手

今村駿介のアワーレコード挑戦 世界記録まであと2.621km！

日本で初開催されたトラック1時間競争

text：田中 苑子　photo：More CADENCE（morecadence.jp）

JCF Hour Record Challenge

52.468km

練習を共にするナショナルチームのメンバーが会場に集結。自己の限界に挑む今村に熱い声援を送り続けた

自己の限界に挑む、静かなる戦い

11月23日に日本で初めての試みとなる「JCFアワーレコードチャレンジ」が伊豆ベロドロームで実施され、トラック中距離強化指定選手である22歳の今村駿介（チームブリヂストンサイクル／中央大学）が挑んだ。アワーレコードは一人の選手が1時間でどれだけの距離を走ることができるか競うもので、現在の世界記録は2019年にヴィクトール・カンペナールツ（ベルギー）がメキシコで出した55.089km。この記録に今村がどこまで近づけるか、注目が集まった。

「自分の気持ちには負けたくない。支えてくれている人たちに最後まで頑張っている姿を見せたかった」という強い気持ちのもと、今村はハイペースを淡々と刻みながらベロドロームを209周し、周囲の期待に応えて52.468kmの好記録をマーク。2014～15年頃に更新された世界記録に相当する力走をみせ、これが公式の日本記録となった。



Behind The Scenes
自転車界を支えるプロフェッショナル

世界で戦う選手は多くの専門スタッフ、技術者たちに支えられている。
報道からは見えてこない仕事だが、競技には不可欠な存在。
選手を舞台裏から力強く支えるプロフェッショナルたちを紹介していこう。



パールイズミ
生産部デザイン課 次長

佐藤 充さん

選手を勝利へと導く一着を作り出す。

text：吉本 司　photo：田中 苑子

「選手のパフォーマンスのためにも、要望は可能な限り叶えたウエアを届けたい」

現在、日本ナショナルチームのロード競技におけるウエアサプライアーを務めているのはパールイズミだ。国内で最も歴史のあるサイクルウエアメーカーであり、日本ナショナルチームは同社の製品と共に数々のレースを戦い抜いてきた。そして来たる東京五輪で日本チームをさらなる高みに引き上げるべく、パールイズミでは新たなロード用ジャージの生地「スピードセンサー®Ⅱ」を開発した。

「これまでの製品（スピードセンサー®）はトラック競技などの高速域でエアロ効果が最大になるようなものでした。今回はロード用に特化した速度域（時速30～40km台）で効果が最大になる性能を目指しました」と語るのは同社・生産部デザイン課の佐藤充さん。

その開発は、まず表面の形状（丸型や菱形ほか、または溝の高さの違い）の異なる生地を世界中から取り寄せ、風洞実験によりロードの速度域に適した形状を割り出した。

さらに最高の空力を得るために合繊メーカーと共同で生地を試作し、風洞実験を繰り返して完成したのが菱形の生地表面をもつ、完全オリジナル設計の「スピードセンサー®Ⅱ」だ。2017年から開発を始めてから2年間をかけてたどり着いた理想の形だった。

もちろんこの生地だけでなく、それをウエアのどの部位に使うと効果的かを風洞で検証し、ウエアのシェイプ、その他の生地も含めて全てが新しくなったロードジャージは2020年にようやく形となり、現在は五輪代表候補選手の手に渡りテストが行われている。

「選手それぞれにこだわる部分が異なるので、それに対応しなければなりません」と佐藤さんが語るように、代表選手が着用するウエアは完全オーダーメイドだ。ベースになっている製品があるとはいえ、パールイズミのスタッフが実際に選手の体を何十カ所と採寸して、彼らの要望も聞きつつ生地の使い方、袖丈、着丈、シェイプといった要素をウエアに反映させてゆく。さらにレースのコンディションによっても要求されるものが変わってくるという。したがって半袖ジャージーつをとっても、選手の数以上のタイプが用意されるという実に細かな対応をとっている。

「空力みたいな性能は数値化できますが、それ以外は数値化できないのでとにかく選手が着て心地がいいもの、それがパフォーマンスに直結すると思うので、可能な限り彼らの要望に耳を傾けて〝できないもの〟がないようにしてあげたいです。手間はすごくかかりますけど、こうしてウエアを作っていくのは楽しいですよ」と佐藤さんは笑顔で応える。

生地の開発、そして選手ひとり一人に完全に異なる仕様のウエアを提供するのは想像を絶する時間と労力だろう。そこにはライダーの能力をウエアで高めたいという愚直な思い、老舗ウエアメーカーのプライドがあるにほかならない。スピードセンサー®Ⅱを使った新しいナショナルチームウエアの完成品は6月を目安にしているという。佐藤さんとパールイズミの戦いは、あと半年ほど続く―。





菱形の大きさと溝の深さにエアロ効果の秘密がある。ジャージでは袖の部分に使われる

TRACK

text：田中 苑子　photo：若生 武則(KEIRIN MAGAZINE)

ヤマダグリーンドーム前橋での全日本選手権トラック 東京五輪代表候補選手が熱戦を繰り広げた





上／献身的にサポートする母・有里さんと今大会で獲得した6つの金メダルを掲げて記念撮影。母娘二人三脚で目標をめざす

右／名だたる日本のトップアスリートとともにスポーツ功労者の顕彰を受けた梶原。「日々の成果が実りとても嬉しい気持ちでいっぱい」とコメント

出場種目全制覇の梶原悠未 スポーツ功労者として顕彰

女子オムニアムの世界王者・梶原悠未（筑波大学大学院）が出場全6種目（個人パーシュート、ポイントレース、スクラッチ、エリミネーション、オムニアム、マディソン―中村妃智ペア）で優勝する快進撃をみせた。もちろんオムニアムの4種目もすべて首位。緊急事態宣言にともなう自粛期間も人一倍の努力を重ね、すべての種目において、世界トップクラスの強さをもってライバル選手を寄せ付けない圧勝だった。順調に東京五輪での金メダルへと近づいていることをアピールした。

また梶原は世界選手権女子オムニアムでの優勝を受けて文部科学大臣より自転車競技で初となる「スポーツ功労者」の顕彰をうけ、大会期間中に賞状が授与された。

男女チームスプリントで日本新 女子は3人制が初開催

男子チームスプリントではワールドカップでの優勝メンバー擁するドリームシーカーレーシングチームが第三走に中野慎詩を迎え入れ、予選では長迫吉拓、深谷知広とともに333mバンクにおける日本新記録（58秒926）を樹立し、順当に決勝へ進出する。決勝では長迫に代わり、新田祐大が第一走をつとめるが機材トラブルにより隊列が崩れDNFとなり、予選2位、若手中心のチームケイドリームス1（荒川 仁／寺崎浩平／山崎賢人）に敗退する。

初日のチームスプリントでは悔しさを味わったドリームシーカーだったが、その後スプリントとケイリンでは深谷が、1kmTTでは新田が素晴らしい走りで勝利した。

女子は今季よりルール改正され、男子同様に3人制となったチームスプリントが国内で初開催され、これまで世界大会で戦ってきた小林優香、太田りゆペアに梅川風子が加わったJPCAが初代王者に輝いた。







上／男子スプリント決勝を制した深谷知広（写真左）。男子ケイリンとの二冠を達成した

右上／男子チームスプリント日本新記録を更新したドリームシーカー

右下／男子チームスプリントの全日本王者ケイドリームス1





左／今大会で初めて実施された3人制の女子チームスプリント

右／初代王者となり日本記録（1分9秒572）を樹立したJPCA

ROAD

text：田中 苑子　photo：辻 啓

開催地変更を経てイタリアで開催された世界選手権

コロナ禍での縮小開催
男女エリートのみ出走

毎年9月に開催されるロード世界選手権。2020年は9月20日～27日にスイス・マルティニー近郊で予定されていたが、COVID-19の影響によりスイスでのスポーツイベントに規制がかかり、約1ヶ月前になってスイスでの開催中止が決まった。その後、代替地としてイタリア中部エミリア＝ロマーニャ州のイモラサーキットでの開催が決定。男子では獲得標高5000mの難コースが設定され、関係者たちは急ピッチで準備に追われた。また世界中での厳しい渡航制限をうけ、すでに欧州で活動するプロ選手が多い男女エリートカテゴリーのみという異例の世界選手権となった。

日本からは欧州に活動拠点を構える新城幸也（バーレーン・マクラーレン）と與那嶺恵理（アレ・BTCリュブリャナ）が出場。與那嶺は個人タイムトライアルを31位で終え、ロードレースでは、終盤まで強豪選手がひしめくメイン集団に残り、自己最高位となる21位でフィニッシュした。一方の新城は序盤から逃げに乗り見せ場を作る。単騎での参戦であり戦略的には難しい選択となるが、逃げた新城は“前待ち”の展開に持ち込むべく、メイン集団に最大で7分のリードを奪う。最後は単独になっても逃げ続けたが9周回中の7周目でメイン集団に吸収されDNFに終わった。



7名の逃げから最後は単独となって先行を続ける新城。残り70kmを前にメイン集団に吸収された



日本人女子選手として唯一UCIプロチームに所属し、年々経験を積む與那嶺。世界クラスの確かな実力をみせた



1968年ぶりに世界選手権が開催されたイモラサーキット。ジロなどがしばし立ち寄る自転車競技ではお馴染みの会場



日本からイタリア入りしたスタッフは2週間の自主隔離期間を経て、日本代表選手のサポートにあたった

PEARL iZUMi

www.pearlizumi.co.jp

facebook.com/pearlizumijp

twitter.com/pearlizumi_jp

instagram.com/pearlizumijapan



BMX RACING

text & photo：猪俣 健一

全日本選手権BMXレース

長迫吉拓が7度目の
タイトルを獲得
女子は丹野夏波が連覇達成！

新型コロナウイルス感染症の影響により開催地が変更され、大阪の大泉緑地公園で行われたBMXレースの全日本選手権。男子エリートには東京オリンピック代表候補の長迫吉拓が4年ぶりに出場した。前回の出場はリオ五輪前に同じコースで開催され、地元大阪の吉村樹希敢に敗れた苦い思い出がある大会だ。4年前と同じく吉村との争いになった決勝レースを制した長迫が7回目のタイトルを獲得した。長迫は「悪いイメージを壊すために出場し、緊張感のあるレースだったが勝つことができて自信になった」とコメント。女子は丹野夏波が2年連続のタイトルを獲得した。男子ジュニアは島比加瑠、女子ジュニアは簸田寿衣がそれぞれ優勝した。





左／長迫吉拓（右）を吉村樹希敢（左）が追う展開の男子エリート。長迫が振り切り7度目のタイトルを獲得した

右上／4年前の雪辱を果たした長迫吉拓

右下／ジュニアとの混走で3レース合計により争われた女子エリート。ディフェンディングチャンピオンの丹野夏波が連覇を果たした



BMX FREESTYLE

text & photo：猪俣 健一

全日本選手権BMXフリースタイル

五輪代表候補の中村と
大池が優勝！
フラットランドは佐々木元と
石崎光紗季がV

2020年の全日本選手権では最初の開催となった全日本フリースタイル。パークは岡山市役所前で行われ、男子エリートは中村輪夢が2年連続3度目の優勝。「今年の長期練習期間に作り上げた720テイルウィップを決勝のランに組み込んでの優勝は成長を実感できた」とコメントした。女子エリートはスーパーマンのトリックを初披露した大池水杜が優勝した。フラットランドはイオンモール岡山で行われ男子エリートは佐々木元、女子エリートは石崎光紗季がそれぞれ2年連続の全日本タイトルを獲得した。石崎は「長期の練習期間で新技にも取り組めたが、短期間でのコンディショニングは大変だった。連覇できて安心している」とコメントした。







左／男子エリート優勝の中村輪夢　右上／女子エリート表彰台、左から深尾梨奈（2位）、大池水杜（優勝）、佐藤孔怜（3位）

右下／男子エリート表彰台、左から高木聖雄（2位）、中村輪夢（優勝）、大和晴彦（3位）





左／佐々木元は急遽開催が決まり緊張したがタイトルを守り抜けてほっとしているとコメント

右／男子エリート優勝の佐々木元（左）と女子エリート優勝の石崎光紗季（右）

MTB XCO & DHI

text & photo：猪俣 健一

マウンテンバイク全日本選手権 山本幸平が通算12度目の日本一



6年連続12回目の全日本王者に輝いた山本幸平

XCO女子エリート 五輪代表候補の今井美穂が 3連覇を達成

第33回全日本選手権マウンテンバイクが11月7-8日に富士見パノラマリゾートで開催された。クロスカントリーの男子エリートは東京オリンピック代表候補の山本幸平が2位の平野星矢に1分以上の差を付けて優勝した。山本のタイトル獲得は12回目。女子エリートは同じくオリンピック代表候補の今井美穂がトップでフィニッシュし3年連続の優勝を果たした。また男子U23では北林力が2位に5分近い差を付けて圧勝した。エリートと同時出走の女子U23では川口うららが一時今井の前を走る存在感を見せつけてタイトルを手にした。



女子エリートは今井美穂が3年連続の優勝を果たした



男子U23を制したのは山本と同じチームに所属する北林力

ダウンヒルは コンマ差を制した 清水一輝が4勝目

クロスカントリーに先立って開催されたダウンヒル。男子エリートは清水一輝が泉野龍雅にわずか0.152秒差のタイムでフィニッシュし2年連続4度目のタイトルを獲得した。3位は2年ぶりのタイトル奪還を目指した井本はじめが入った。清水は「短いコースでワンミスが命取りのタフなレースだった。細かいところでタイムを縮めるために取り回しのしやすくペダリングで有利なエンデューロバイクにダブルクラウンサスで臨んだ。僅差で勝ててうれしい」とコメントした。女子は岩崎美智恵が2年連続のタイトルを獲得。2位にはクロスカントリーで五輪代表を争っていた松本璃奈が入った。





2位に5秒以上の差を付けて2年連続でタイトルを獲得した岩崎美智恵



ペダリングで有利なエンデューロバイクで僅差を制した清水一輝

この道の先に
NIPPO
もっと速く、さらに遠くへ
NIPPO は戦うアスリートたちを応援します。
株式会社 NIPPO
本社 東京都中央区京橋1丁目19番11号 TEL（03）3563-6711
https://www.nippo-c.co.jp/

MTB XCE & XCC

text：岩崎 竜太　photo：岩崎 竜太、猪俣 健一

都市部で初開催のMTB全日本選手権 XCEは澤木紀雄、XCCは山本幸平が勝利

女子XCEは川口うらら、 XCCは小林あか里が タイトルを獲得

近年注目を集めているMTB競技のXCE（クロスカントリー・エリミネーター）とXCC（クロスカントリー・ショートトラック）。XCOのコース、レース時間をコンパクトにすることで、スピーディなレースが展開されるMTB競技だ。千葉県・千葉公園にて初開催された全日本選手権は都市部で行われたことも助けとなり、多くの観戦者が訪れた。

12月5日に行われたXCEの特徴は、4人の選手が走り上位2人が勝ち上がるトーナメント方式。スタートからスプリントでの激しい位置取りが展開され、コース上にある障害物やコーナーごとに順位が入れ替わる激しい展開のレース。MTBのダウンヒルや、BMXレースで活躍する選手も参加する異種対決も魅力だ。男子エリートの決勝には、澤木紀雄（acuパワーレーシングチーム）、北林力（ドリームシーカーMTBレーシングチーム ）、前田公平（弱虫ペダルサイクリングチーム）、山口創平（日本体育大学）の4人。いずれもXC選手がスタートラインに並んだ。

スタートスプリントで澤木、北林、山口、前田の順に、2番手北林は上り区間に入るとダンシングで前へ。最終周回の2周目に入っても北林の積極的な走りで、4人の集団は長くなっていくが背後には澤木がピタッとつける。上り区間で踏み続ける北林のイン側から澤木が前に出て、下りダートコーナーで澤木が前へ。最終コーナー入り口で北林が前に出るも、出口ではスピードをコントロールしコンパクトに回った澤木が前に出てそのままフィニッシュ。3回目の全日本チャンピオンとなった。

12月6日に行われたXCC、コースの全長は800m。国内XCのレースではレース中、選手は単独での走行や2~3人のパックになる展開が多いが、XCCのコンパクトなコースではロードレースのような集団走行で、レース中は常にポジション取りを意識しなくてはならないスピーディな展開。男子エリートの決勝は15周回、20人でのスタート。序盤は激しく先頭が入れ替わるハイスピードな展開となり、先頭は6人の集団に。中盤までは竹内遼（フカヤレーシング）が積極的に先頭を引くものの、終盤には平林安里（チームスコットジャパン）、北林力、山本幸平（ドリームシーカーMTBレーシングチーム）の3選手に絞られる。残り2周、先頭を行く平林が少しペースダウンするとそのすきを見逃さず前へ飛び出したのは山本。力強く加速していき、わずかな周回ながら最後は単独でのフィニッシュ。レース展開の上手さ、実力の差を見せつける勝利となった。



XCC男子エリート、中盤になるとトップは6人の集団になる





左／XCC男子エリート、残り2周でアタックをかけた山本が独走となり勝利した

右／XCC女子エリートは小林あか里（CMC/Aigle）が優勝。3選手以外は足切りとなった





左／XCE女子エリートで勝利したのは川口うらら（フカヤレーシング）。2周目の上りで先行する小林を抜きフィニッシュした

右／XCE男子エリート、最終コーナー出口で北林を抜いてトップになった澤木がフィニッシュラインを越える



今大会を最後に引退する中原義貴（左、WIAWISレーシングチーム）と前田公平（右）。10代の頃からXCレースを盛り上げてきた2人の姿は多くの人の心に刻まれている

JAPAN AIRLINES



翼は、夢を見る。
勝利を夢見て、ひたすら努力する
アスリートたち。
彼らの頑張りが、汗が、涙がスポーツの
魅力となって輝く。
勝敗をこえた感動を、私たちに
与えてくれる。
彼らのさらなる飛躍を願い、
JALはスポーツの夢を応援します。

CYCLOCROSS

text & photo：織田 達

一騎討ちを制した沢田、最後尾追い上げた今井が王座奪還



一騎討ちの白熱した勝負を繰り広げた沢田と織田。織田は今年エリート1年目、今後が楽しみな選手だ



僅差の勝負を制した沢田が大きくガッツポーズを掲げる



レースの厳しさを物語る男子エリート表彰台、1位沢田、2位織田、3位竹内



MTB XCOの東京五輪代表候補の今井がシクロクロスでも全日本王者に



スタート直後に登場する深い泥区間。テクニカルなコース設定も話題になった

重たい泥に覆われた難コース 沢田が4年ぶり2度目の勝利

第26回全日本選手権シクロクロス飯山大会が11月28、29日の2日間で行われた。男子エリートは、序盤から泥により乗車できないラン区間の混戦から沢田時（チームブリヂストンサイクリング）と織田聖（弱虫ペダルサイクリングチーム）の2人が抜け出し、勝負は最終周回までもつれ込んだ。階段で先行していた織田が直後のピットでバイク交換した隙に先頭を奪い返した沢田がそのままフィニッシュ。2016年以来4年ぶり2度目の全日本チャンピオンに輝いた。2位には織田が入り、3位には竹内遼（フカヤレーシング）が入った。このレースは7周回で争われ、67名が出走のうち完走者は10名だった。

23名が出走した女子エリートは4周回で争われた。MTB XCO全日本選手権を3連覇した今井美穂（CO2bicycle）がスタート直後にバランスを崩し、その後の泥区間で転倒し最後尾まで下がる。その隙に與那嶺恵理（OANDAジャパン）がトップに立った。今井は焦りからネットにバイクを引っかけてしまうシーンもあったが、3周回目に與那嶺をラン区間で捉えトップに立つとそのまま與那嶺を引き離し、2017年以来3年ぶり2度目のチャンピオンになった。

AEON

PARA CYCLING

text & photo：田中 苑子

パラ・トラック全日本 大会新を二種目で樹立





上／3km個人パーシュートを走る杉浦佳子。2019年、500mタイムトライアルで世界選手権で2位

右／今回2種目で全日本王者となった杉浦。初出場となるであろう東京パラでの活躍に期待がかかる

東京パラリンピックを見据える有力選手が着実に結果を残した

ヤマダグリーンドーム前橋にて開催されたパラ・トラック全日本選手権。東京パラリンピックの代表候補選手の発表はまだされていないが、代表入りをめざす選手たちが各種目に出場した。

ロードレース種目で世界チャンピオンの経歴をもち、東京パラリンピックでの金メダル候補の筆頭とされる杉浦佳子（楽天ソシオビジネス）は500mタイムトライアル・WC2-3クラスで大会記録を更新して優勝。3km個人パーシュートでも優勝し危なげなく二冠。また1kmタイムトライアル・MBクラスでは木村和平・倉林巧和ペア（楽天ソシオビジネス）も大会新記録をマークした。



タンデムバイクを使用するMBクラスの木村和平・倉林巧和ペア。2018年アジアパラ競技大会で優勝している



1kmタイムトライアル、4km個人パーシュート・MC4-5クラスで優勝した石井雅史（イナーメ信濃山形）



1kmタイムトライアル、3km個人パーシュート・MC2-3クラス優勝の川本翔太（大和産業）

JCF INFORMATION 日本自転車競技連盟からのお知らせ



栗村 修氏がJCF理事に就任

2020年10月より海外レース解説やツアー・オブ・ジャパンの大会ディレクターとしても活躍する栗村修氏が新たにJCF理事に就任。幅広い経験をもって日本の自転車競技界のさらなる発展をめざす。

「全日本実業団自転車競技連盟を通じての着任となります。ロードレースの世界に入って35年近くとなりますが、これまで経験してきたことなどをJCFの取り組みに生かせていければと考えております。どうぞ宜しくお願いいたします」

2021年JCFライセンス登録受付中

選手、審判、チームアテンダントの2021年ライセンス申請をオンラインにて受付中。2021年は1月4日正午より申請受付（新規・再登録）を開始する。 https://jcf.or.jp/official/registration/

女子育成部会ウェブサイト公開

女性アスリートの競技環境を整え、自転車競技に取り組む女子アスリートを応援する「JCF女子育成部会」。さまざまな情報をウェブサイトにて発信している。 https://jcf.or.jp/for-femalecyclists/

SUBARU

LEVORG
STI Sport

悦びにあふれた物語が、いま始まる。

2020-2021
日本カー・オブ・ザ・イヤー受賞

日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会主催



乗る人すべてに、未体験の走りの愉しさを。「ドライブモードセレクト」搭載。

LEVORG STI Sport　1.8L DOHC　直噴ターボ"DIT"　リニアトロニック　AWD(常時全輪駆動)

STI Sport［アイサイト搭載車］

STI Sport EX［アイサイトX搭載車］

PHOTO:STI Sport EX　クリスタルホワイト・パール(有料色)　スマートリヤビューミラーはメーカー装着オプション　LEDアクセサリーライナー、STIフロントアンダースポイラー、STIサイドアンダースポイラー、STIリヤサイドアンダースポイラー、STIリヤアンダースポイラーはディーラー装着オプション　写真は撮影用に点灯しています。写真はすべてイメージです。
●写真は印刷インクの性質上、実際の色とは異なって見えることがあります。●この仕様はお断りなく変更する場合があります。●詳細は店頭またはWEBでご確認ください。

［SUBARU お客様センター］SUBARUコール 0120-052215

www.subaru.jp/levorg/levorg/stisport/index

安心と愉しさを。SUBARU